授業科目	キリスト教と現代					単位	1
履　　修	選択	関連資格				ナンバリング	EN10105J
開講年次	3	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP4-1		
担当教員	神崎　明坤						
授業概要	「感恩奉仕」という建学の精神は、教義の基準を聖書におくキリスト教に基づく。授業内容は、『現代の民主主義の根底にある人権思想は、ジョン・ロックが聖書の創世記の神による人間の創造神話に基づいて主張したもの。本授業は現代における個人の尊厳、自由、平等の「不可侵性」を基礎づけたキリスト教の視点を手掛かりに、世界、アジア、そして日本が直面している問題について、学生が思索する力を培うことである。 すべて遠隔授業で行う。						
学生が達成すべき行動目標	1、授業で扱う聖書の章と節の意味を理解することが出来る。 2、聖書の示す「人間の根本問題」とそれに対する「神の救済計画」を説明できる。 3、授業で学んだ範囲でキリスト教の価値観を現代の自分の置かれた問題と関係させて考え表現することが出来る。						

達成度評価

評価と評価割合／評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	60	0	10	0	25	5	100	
知識・理解（DP1-1）	40	0	5	0	15	0	60	
知識・理解（DP1-2）								
知識・理解（DP1-3）								
知識・理解（DP1-4）								
思考・判断（DP2-1）								
思考・判断（DP2-2）								
関心・意欲（DP3-1）								
関心・意欲（DP3-2）								
態度(DP4-1)	20		5		10	5	40	
態度(DP4-2)								
態度（DP4-3）								
技能・表現（DP5-1）								
技能・表現（DP5-2）								
技能・表現（DP5-3）								

具体的な達成の目安

理想的レベル	標準的なレベル
標準レベルのことに加えて、以下のことが実行できる。予習として、毎回授業のテーマの聖書の箇所を読み、テキストの分からない用語の意味を調べておく。キーワードと思われる用語、疑問や自分の考えを書き留めておく。授業中は新たな疑問や発見したことを書き留め、クラスで分かち合うことが出来る。復習として、ノートを見ながら、授業で学んだテキストを再度読み理解を深めることが出来る。手がかりとなるものが無くても、行動目標を実行できる。	予習として、毎回、シラバスの記載に従ってテキストを読む。聖書、テキストを準備しておく。授業中は、用語の意味を理解し、特に関心を持ったことや疑問などのコメントを書いて提出する。復習は、テキストを読み返し、授業で学んだ内容の理解を確かなものとし、また、キーワードとなる用語の意味を再確認する。課題を行い、レポート提出は期日を守る。自作のノートやテキストを見ながら行動目標として求められている内容を実行できる。

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション 現代とキリスト教、 科学時代にキリスト教を学ぶ意義	講義	聖書の代表的な用語の読み方	90
2	聖書とイエス・キリスト、	講義	聖書の目次を読む	90
3	聖書の意味論的解釈---聖書の世界、 聖書の構成	講義	聖書　創世記を読む	90
4	私たち人間の根本問題、 人間の関係性「イマゴ・ディ(神の像)」	講義	聖書創世記を音読する	90
5	アダム物語----関係性と高慢、 カイン物語----自尊心と高慢、 バベルの塔物語---関係性と権力欲	講義	聖書創世記を 2 章、3 章、4 章音読する	90
6	試練と摂理、 アブラハム物語---関係性回復の使命と信仰、 ヨセフ物語---関係性回復と思考と次元	講義	聖書創世記を11章～23 章読む	90
7	旧約聖書は現実をどう捉えているか。 自然と人間、 神の被造物としての人間と自然 神の似姿としての人間 自然の中に現れる神の力	講義	創世記を 25 章～45 章読む	90
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	テキストに用いられる用語の読み方と意味を確認しておくこと 各授業の課題となっているテキストを 3 回読む技術を身に付けること 指定された参考書を少なくとも 2 冊読むこと 聖書の章と節を短時間で開くことができること。
テキスト	古川敬康著『キリスト教概論---新たなキリスト教の架け橋』勁草書房、2014 年。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	聖書。 参考文献: 大村修文著『キリスト教史はじめの一歩』。 桜井希著『共に生きる』。 湊晶子著『女性を生きる』角川書店 2010 年。 芦名定道著『キリスト教と現代』世界思想社 2001 年。 ジョン・ロック著　加藤節訳『統治二論』岩波書店　2010 年。 ロック著服部知文訳『教育に関する考察』岩波書店　1967 年。 ジョン・ロック著　加藤節訳『寛容についての手紙』岩波書店 2018 年。
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	自分とは誰で何かという自己理解（アイデンティティ）の形成や自己創造の対話の相手として、聖書やテキストと親しくなること。 そのために役立つ学習方法としては: １、集中力を高めること ２、どのテキストも 3 回以上読む習慣を身に付けること ３、聖書は自分にだけ聞こえるように小声で音読すること
達成度評価に関するコメント	試験（8 回目試験 60 点）、レポート 10 点、レポート外の提出物（各授業で提出する、下記の加減点表、予復習表、授業コメント 25 点）、（授業への参加態度 5 点） 5 点, 加減点表の内容: 加点各 2 点（テキストや参考書読破感想文 400 字以上、3 回まで） 減点各 1 点（聖書、テキストの不持参 3 回毎） 7 回目の授業中に試験として Classroom で出題をし、その場で回収を行う。